

# 天竜川の礫河原における 駆除したい外来植物

近年、天竜川には多くの外来植物が侵入しており、ツツザキヤマジノギク(裏面参照)をはじめとした河原植物(カワラサイコ、カワラニガナなど)が減少しています。これらを守るためには、以下に挙げるオオキンケイギク等の外来植物を駆除(抜き取り)し、生育環境である礫河原を維持することが有効です。

**オオキンケイギク** キク科 / 多年生草本(北アメリカ原産) 特定外来生物※1



**シナダレスズメガヤ** イネ科 / 多年生草本(南アフリカ原産)



**ハリエンジュ** マメ科 / 木本(北アメリカ原産)



**アレチウリ** ウリ科 / 一年生草本(北アメリカ原産) 特定外来生物※1



**オオブタクサ** キク科 / 一年生草本(北アメリカ原産)



※1 特定外来生物: 外来生物法によって「特定外来生物」に指定されている種で、植えることや撒くこと、持ち運ぶことなどが、法律で禁止されています。

## ◎ 外来植物によるさまざまな悪影響

現在のツツザキヤマジノギクの自生地は数えられる程度で、極めて局所的です。また、生育地においても、ハリエンジュやオオキンケイギクなどの外来植物に追いやられ※2、その個体数は減少傾向にあります。このような例をはじめ、外来植物は以下のような悪影響を及ぼす恐れがあります。

花粉症の原因になる。

洪水時の水流を妨げてしまう。

環境の基盤を変質させてしまう。

ほかの植物を追いやってしまう。

その他、在来種との交雑によってその種の純系を絶滅させる、農業に被害を与える、など。。

※2 ツツザキヤマジノギクなどの河原植物は、礫河原という厳しい環境に生育していますが、これは他種との競争を避けるには都合のよい場所です。しかし近年では、そのような環境にもオオキンケイギクなどの外来植物が侵入しています。外来植物が繁茂すると、生育場所がうばわれたり、成長に必要な日光がさえぎられることにより、河原植物が衰退してしまうと考えられます。